

給食便り

那珂こども園

令和2年2月28日(金)

木々や花が芽吹き始める様子に、春の訪れを感じる季節となりました。この1年でぐんと身長が伸びた子やスプーンやフォーク、お箸の持ち方が上手になった子など、子ども達の成長がみられる瞬間が多くなりました。また一つ、お兄さん、お姉さんになる子ども達の成長した姿をうれしく感じているこの頃です。



●食育を通してコミュニケーション●

給食室では、1年を通して、保育教諭と連携を図りながら子ども達の食育活動のサポートを行ってきました。クラスごとに一人一人に見合った発達段階の食育を進めてきました。

さくらんぼ組とともも組は、離乳食の子、まだ歯が生えそろっていない子など月齢によってそれぞれ個人差があります。一人一人に対応できるように「野菜の大きさはこのぐらいかな」「おかゆはすりつぶしたほうが食べ進みはいいかな」と日々、担任の先生と相談しながら進めていきます。

みかん組は最近では、食べ終わった食器のお片付けをしている様子がみられます。私たちが通りかかると子ども達は「あれ?どこだったかな」とお片付けの場所をわざと間違えてみたり、給食室の先生に自分で片づけられる姿を見てほしい様子です。そのときは私たちも「一緒にかんがえてみようねー」と見守ります。上手にできたら「よくできました」と拍手を送ります。こうやって成功体験を重ね、自立心がめばえることで子ども達の次のやる気につながるようにしています。

ばら組は、はじめはおかずやご飯を少な目で提供しないと食べ終わることができませんでした。しかし、最近では食欲も増え、おかわりをたくさんしてくれるようになりました。子ども達からも「これはどうやって作るの?」「なんで今日はりんごなの?」と興味を持つ子もいるようです。私たちは子ども達に分かる範囲で作り方や食べ物の旬について話してきかせます。理解できているかはわかりませんが、私たちなりに子どもの持つ「なんで?」に一つ一つ応えてあげることを大切にしています。

うめ組は意思表示をはっきりしてくれる様子がみられます。「自分でやってみたい」という強い気持ちがあり、お当番活動では率先してお手伝いをしてくれます。時には慌てすぎて、お味噌汁をこぼしてしまい、失敗してしまったことにショックを受けて泣いてしまうこともあります。私たちは「大丈夫だよ、次は気をつけようね」と声掛けをし、もう一度チャレンジさせます。何度も失敗を繰り返すことで、少しずつ気をつけようとする気持ちが働いていきます。最近では、私たちが果物を配ると「ありがとう」や「おっきいのにして」と微笑ましい言葉を聞くこともできます。

さくら組はお泊り保育でのカレー作りやお味噌汁作りをし、包丁を使う練習をしてきました。初めてのころの不安定な手つきに比べると、今では見違えるほど上手になり自分のペースで包丁を使えるようになりました。お手本に目の前でネギを切るところを見せてあげると「こうやって包丁を動かすんだね」と給食室の先生の包丁さばきをよく観察している様子がみられました。

つづきは裏面です⇒

那珂こども園での食育は毎日の生活の中で子ども達が楽しく食事をし、ストレスにならないように少しづつ進めることを大切にしています。

近年、食べ物の詰め込みによる誤嚥によって窒息するなどの事故が全国で多発しています。子どもの月齢に合わせた食べ物の大きさで食事を提供することをおすすめします。



✿一年をふりかえって✿

一年を通して、ランチルームで子ども達と触れ合う場面が数多くあります。「おはよう」と言うと「今日のごはん何?」という給食室の先生とのお決まりの挨拶があります。

次は、子ども達がトイレへ行く途中に給食室へ立ち寄り「くだものなーに?」とお皿の果物が気になる様子です。

また、小さい子のクラスでは年度初めは、給食室の先生の恰好（マスクと帽子）が怖くて泣いてしまう子もいたので、子ども達の食事中は給食室の先生の姿が見えないように子ども達の食べる様子を後ろから観察していましたが、いまではすっかり慣れた様子で、ご飯を運ぶ先生だと認識してもらえたのでしょうか、笑顔で手も振ってくれます。

毎年、子ども達が成長していく様子を給食室から見守っていますが、子ども達一人一人の個性があり、那珂こども園で一年一年成長していく姿を見ると嬉しさと寂しさがこみあげます。

子ども達はこれからたくさんの体験をし、泣いたり、笑ったり、怒ったりいろいろな感情を学ぶ出来事に出会うことでしょう。私たち職員も日々、子ども達と触れ合うことで元気をもらいながらより安心・安全な給食づくりに励み、子ども達に喜んでもらえるよう努力していきたいと思っています。

給食室職員一同

